

専門学校は生涯キャリアを支える学び直しの拠点へ

専門学校が拓く[学び直し]で輝く未来

技術革新が加速し、キャリアの途中で“学びを更新する”ことが当たり前になりつつあります。

企業でもリスキリングが急務となり、社会人の学び直し需要は急拡大。

実践教育に強い専門学校は、若者だけでなく多様な世代のキャリアを支える拠点として今まさに期待が高まっています。本特集では、専門学校が拓く新たな学び直しの姿を探る。

急速に変改する働き方と期待

デジタル化、技術革新、働き方の変化「終身雇用」「一回の学校教育でキャリアが決まる」というこれまでの常識は、もはや通用しません。そんな中で注目されているのが「リカレント教育」です。

「学びと仕事を往復しながら、社会人が必要なスキルを身につけ直す学び」と位置づけています。

リカレント教育は、単なる「生涯学習」とは異なります。単に趣味や余暇を豊かにする学びではなく「仕事に直結する再教育」を目的としており、これこそがリスキリングと並び称される重要な学びのスタイルだ。

リカレント教育と並びリスキリングも注目されている。リスキリングとは[新しい職業に就くために、あるいは今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する・させること]と定義されています。

一度仕事の間を離れ学習をする意味合いが強いリカレント教育とは異なり、業務と並行しながら仕事に役立つスキルを学ぶ意味合いが強い言葉だといえる。

昨今ではDX化における変化が激しいことから、DX人材育成の文脈で用いられることが多い学習方法だ。

DX・AIの浸透や産業構造の再編、人材不足の深刻化により、働く人々のキャリアはかつてないスピードで揺れ動いている。こうした環境下では年齢や立場に関係なく必要な知識やスキルを随時更新する“学び直し”が不可欠になった。

学び直しは一時的な流行ではなく、日本社会の基盤作りに直結する重要課題である。

国からも重視される教育

2020年7月3日開催の首相官邸「未来投資会議」において、新たな「成長戦略実行計画案」が示された。

その案の3本柱のなかの一つに「社会人の創造性育成（リカレント教育）」が挙げられている。国からも重視されているのがリカレント教育だ。

企業が推進するメリット

DX推進力の強化、自律的な人材の育成多様なキャリアパスの確保、人手不足解消につながる「社内人材の再活用」など企業が得るメリットは多い。

特に「現場に精通した社員を再教育し、新たな役割に配置する」という動きは、もはや例外ではない。

多層的な「DX人材」育成体系を整備するAGCや、「キャリア自律」を促す制度設計の富士通、最長6年間の「育自分休暇制度」を設けたサイボウズ、企業に属しながら学び直しできる「キャリアマッチング制度」のキャノンなど一度仕事から離れて教育機関で学ぶ、という意味合いの強いリカレント教育ですが、企業に属したまま学び直すことができる仕組みもある。社内におけるリカレント教育の推進は、時代の潮流に対応していくために重要と言える。

導入企業に共通するのは、学び直しが“企業の課題解決”と結びついている。必要な学びが明確で、制度として運用されている。評価制度やキャリアパスと連動しているという点である。

専門学校こそが果たす役割・強み

ここにこそ、専門学校の存在価値がある。大学ではなく、実践・職業教育を担う専門学校は、リカレント教育の受け皿として非常に有力。企業で働きながらキャリアを積んだ後に、必要とされるスキルを短期間で学び直せる。新卒採用人材育成だけでは対応しきれない、現代の人材ニーズに応えるものだ。さらに専門学校が地域や産業界と連携し“地域の再教育エコシステム”を作ることにも可能。地方の企業、地元の中堅・中小企業、汎用職からのスキルアップにも対応できれば、地域経済活性化も可能である。

専門学校に求められる受け皿

日本全体を見れば、教育訓練休暇や短時間勤務制度を整えている企業はまだ少なく、「学び直し＝個人の自己責任」と考える傾向が強く、制度や環境整備が遅れているのが現状である。

そのため専門学校には働きながらも通いやすい柔軟な学習設計、実務に直結した短期集中型プログラム、資格・デジタルスキルを可視化できる仕組み、地域企業と連携したカスタム型カリキュラムなどの提供が強く求められている。

リカレント教育の需要は確実に増加しており[どこで学ぶか]よりも[どれだけ実務に結びつくか]が問われる時代へと移行。専門学校はその中心的役割を担う可能性を大いに秘めている。

参考引用記事：

日本能率協会マネジメントセンター
[リカレント教育とは？リスキリングとの違いや日本の課題について解説!]
<https://www.jmam.co.jp/hrm/>

～未来を創る～ 第12回全国高等学校フードグランプリ本選出場

伊藤忠食品(株)が主催し、食を通じた地方創生と人材育成、そして食品市場の活性化を目的とする「全国高等学校フードグランプリ」において新たにマーケティング部門が設立されました。この部門にはビックデータマーケティングを学ぶ専門学生が参加しました。

11月1日に東京・池袋サンシャインシティで開催された本選大会にて専門学校が参加するマーケティング部門においては、高校生が開発した本選出場商品の販促アイディアの発表を行いました。たくさんの観客が見守る中、学生の皆様は立派に発表をしてくれました。

専門学校からは以下2校が参加

- ・アルスコンピュータ専門学校
- ・専門学校岡山情報ビジネス学院

※学校名あいうえお順

今後もDreamは伊藤忠食品と連携し産学連携の取組みを強化していけるように努めてまいります。



お問い合わせ

一般社団法人
ビックデータマーケティング
教育推進協会

TEL:03-3436-2057
<https://jp-dream.or.jp/>

当事務局はTCE財団の検定事業に賛同します。

第10回セキュリティコンテスト MBSD Cybersecurity Challenges 2025最終選考会開催^[PR]

セキュリティコンテスト「MBSD Cybersecurity Challenges 2025」今回の課題は「Webサイトに潜む脆弱性を見つけ出す」というテーマに対して、全国30校、96チームのエントリーがありました。

多数のご参加ありがとうございました。

期限までに課題を提出していただいた86チームについて一次審査を行い、厳選なる審査の結果、下記10チームが選出されました。一次審査を通過されたチームの皆様、おめでとうございます！

一次審査を通過した10チームでの最終審査会が12月12日(金)に東京会場で開催されます。

エントリー No.	チーム名	学校名
1	Network Access Security Breaker(NASB)	ECCコンピュータ専門学校
10	佐藤の一族	HAL東京
29	突貫工事。	YIC情報ビジネス専門学校
34	やる気元気尾崎とニキ	トライデントコンピュータ専門学校
44	KIKI	国際電子ビジネス専門学校
52	ドルフィン	専門学校穴吹コンピュータカレッジ
53	deliketchup	情報科学専門学校
59	電子遊戯部(1)-コピー.exe	新潟コンピュータ専門学校
63	ITスペシャリスト科チームα	日本工学院専門学校
83	AIEL	麻生情報ビジネス専門学校

最終選考会の結果発表は
12月15日以降専門学校と経営の
ホームページにて掲載いたします！
お楽しみに！
<https://setten.sgec.or.jp/>

お問い合わせ

セキュリティコンテスト事務局
03-3436-2035
<https://setten.sgec.or.jp/>

当事務局はTCE財団の検定事業に賛同します。

専門学校と経営 | 通信

No.28 2025年12月発行(年4回)

■本誌記事内容に関するお問い合わせ

【専門学校と経営】事務局

〒105-0021 東京都港区東新橋2-18-3 ルネバリエーレ汐留906(株式会社ビーアライブ内)
[TEL]03-3436-2035 [Mail]mail@setten.sgec.or.jp [URL]https://setten.sgec.or.jp/

協力：一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団(TCE財団) 事業部事業課 検定試験センター

「創る」「使う」「伝える」
情報検定 J 検

URL <https://jken.sgec.or.jp/>

ビジネス能力検定 B 検
Jobpass
ジョブパス

URL <https://bken.sgec.or.jp/>

- 【専門学校と経営】は、TCE財団の検定事業(J検・B検)と連携して、専門学校の産学連携を促進する様々な取組について情報発信しています。